



ベルギー ゲント大学

「ゆっくり、いそぐ」海外留学

2022年2月から7月にかけて、一橋大学の海外派遣留学制度を利用して、ベルギーのゲント大学に留学しました。コロナ禍や円安の時期と重なり、経済的に厳しい状況下での留学でしたが、一橋大学の同窓会組織である如水会の奨学金による手厚い支援を受けて、実りある半年間を過ごすことができました。



所属した学生団体でのイベントにて[著者撮影]

Why? & What?

留学に対して当初から具体的な目的意識（英語力の向上、現地での学びなど）があったわけではありません。漫然と大学生活を日本で送り続けずに、刺激的・非日常的な場に身を置きたいという思いから、

また一橋大学の奨学金制度が充実していたことから、留学を決めました。ベルギーを留学先として選んだ理由は、①周囲が多くの国に囲まれていることもあり、ベルギーという国が多文化・多言語・多民族という、日本とは正反対の特徴を備えていたこと、②EU本部があるからか、他国への交通の便が良く、EU内の旅行がしやすいこと、③治安・物価共に問題無いことが挙げられます。留学中は、履修する授業は少しにとどめ、EU諸国を旅したり、元々日本でも所属していたAIESEC（海外インターンシップを運営する学生団体）の現地支部で活動したりしました。学生団体の全国規模の合宿に参加した際に、夜遅くまで様々な人種・国籍の学生と語らったのは良い思い出です。

Where?



留学先のゲントの夜の街並み[著者撮影]

ベルギーは前述の通り、文化や言語や民族の多様性や治安、物価、交通などの点から日本人にとっては非常に魅力的な国です。留学先のゲントという街は首都のブリュッセルから電車で30分ほどの、ギルドハウスが立ち並ぶ中世の街並みが現存している学生街で、まるで一橋大学が位置する国立市のような落ち着いた空気が流れています。チョコレートはもちろん、ビール、ワッフル、ムール貝、フリッツと呼ばれるフライドポテトなど、日本人の口にも合う美味しい食べ物で満ちているのも大きな魅力です。授業終わりにビールとフリッツ片手に川辺に座ってギルドハウスを見ながら読書、なんて至高のひとつときですね。

オ ス ス メ の 一 冊



ゆっくり、いそげ：カフェからはじめる 人を手段化しない経済

影山知明 著(大和書房, 2015年)
【請求記号】6730: 568

本書は西国分寺の喫茶店クルミドコーヒー店主の影山さんが執筆された本で、副題にある通り、「人を手段化しない経済」がテーマとなっています。留学中はどうしても「何か成果を上げなければ」「目標を絶対に達成しなければ」と躍起になってしまいがちですが、そのようにして自分を追い込む(いそぐ)ことだけが正解なのでしょうか。異国での日々を「ゆっくり、いそぐ」、そんな留学もあっていいと思います。

執 筆 者 紹 介

岩崎友哉／経済学研究科 修士1年
(5年一貫プログラム)

学部時代は、AIESEC、フェンシング部、YMCA一橋寮に所属。
現在は国分寺のシェアハウス、ぶんじ寮で暮らしています。
雑誌『一橋』第57号入選。一般社団法人Co理事。

